

中部大学通信



.....
SINCE 1967

No. 238

July 2026

ウプト

w p w t



ウプトとは、古代エジプトのヒエログリフ（象形文字の一種）で、「伝達する人」の意味。エジプト古王国の碑文などに見られ、19世紀初めにフランスのシャンポリオンが解読している。



特集

5月27日に行われた「第24回全学学科対抗スポーツ大会」

Active Chubu Report

自信は、後から育つ — 10名の女性起業家に聞いた起業の本音 —

経営総合学科 趙偉教授

女性起業家研究に取り組む中で、理論だけでは捉えきれない何かがあると感じるようになった。論文や統計が描く「女性起業家像」と、実際に事業を営む一人一人の姿との間に、埋めきれない距離を感じたのだ。そこで大学院生と共に、各地で活躍する女性起業家10名に、直接話を伺うことにした。正直に言えば、そのときの私には先入観があった。「女性だからこそ直面する壁がある」という前提だ。先行研究はそれらの困難を丁寧に描いてきた。だから私も、そういう話を聞くつもりでインタビューに臨んだ。

ところが、起業家の方々の語りはその予想を静かに、そして確実に裏切っていた。

「女性だから不利だと感じたことは、ほとんどない」。この趣旨の言葉を、私は異なる表現で何度も聞いた。「女のくせに」と言われた経験のある方もいた。しかし彼女たちは一様に、それを「さほど気にならなかった出来事」として笑い飛ばした。壁があっても、立ち止まらなかったのだ。

最も深く考えさせられたのは、「自信」の問題だった。自己効力感は起業の成否に深く関わり、と研究では論じられる。しかし皆さんの話を聞いて気づいたのは、彼女たちの自信は最初からあったわけではないということだ。「もともと自己肯定感の低い子どもでした」と打ち明けた方もいた。失敗し、支えられ、経験を積む中で、自



学生と起業家の方と(左端が筆者)

CONTENTS

桃園四季 P01

自信は、後から育つ
—10名の女性起業家に聞いた起業の本音—
趙 偉教授

特集 P03

Active Chubu Report

Close Up P05

AI先生の開発
——「わかる」を支える、もう一人の先生
樋口 万太郎 准教授

学生編集委員のページ P07

教えて!!
文理医教の一日のスケジュール

学生編集委員募集 P10

ウプト学生編集委員って?

ようこそわが研究室へ P11

再生可能エネルギー電源を
主体とする電力ネットワークに
関する研究
飯岡 大輔 研究室

わがクラブ P12

限界の先へ、みんなで挑む
トライアスロン部

私の学生時代 P13

「スポーツ栄養学」という軸で
広がった自分の世界
小池 温子 助教

活躍するOG P14

子どもの心の声に寄り添う
杉浦 叶恵さん

特集レポート P15

2025年度決算報告

CAMPUS NEWS P17

ネーミングライツ・パートナーが
学生を対象に無料ランチを提供
etc.

Random Shot P22

学生の主体性を陰で支える
唐木 純也さん

信は後から育っていた。自己効力感は起業の「条件」であるだけでなく、起業の「結果」でもあるのだと、私は認識を改めた。

もう一つ、心に刻まれたことがある。「手元にあるものから始める」という生き方の強さだ。目の前の縁を信じ、できることから動く。経営学ではこれを「エフェクチュエーション」と呼ぶが、起業家の方々はその言葉を知らずして実践していた。彼女たちの姿は、理論書よりずっと雄弁だった。

そして何より、人との「つながり」の力を思い知った。「情報と人の縁」が一番役立ったと語った方は10名中8名に上った。孤独に見える起業の道は、実は人と人の網の目の上に成り立っていた。

研究者として私は、女性起業家の「困難」を説明しようとしていた。しかし起業家の方々が教えてくれたのは、困難より先にある「可能性」だった。覚悟を持って動き始めれば、縁は広がり、自信は育ち、道は開かれる。この事実を、ゼミ生と共に研究の中に刻んでいきたい。



起業家の方へのインタビューの様子



趙 偉

チョウイ

名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士(経済学)。専門は経営組織論。近年は女性アントレプレナーシップ研究に加え、ディアスポラ起業家やトランスナショナル起業家にも関心を寄せている。

特集

Active Chubu Report

学科の誇りをかけた熱戦、ゴールを目指し歩いた道のり、そして一打に集中するバドミントン。
異なる3つの舞台で、学生たちが放った熱量をダイジェストでご紹介します。躍動する「中部大生」をご覧ください！

全学学科対抗スポーツ大会

5月27日午後、メイングラウンドで第24回全学学科対抗スポーツ大会が開催され、全学科の学生1,300人以上が参加しました。競技は大縄跳びとダンシング玉入れ、リレー、アトラクションのクラブ対抗リレーが行われました。大会の様子は放送研究会の学生により、YouTubeでライブ配信されました。



ダンシング玉入れ

- 1位 経営総合学科
- 2位 現代教育学科
- 3位 英語英米文化学科

パフォーマンス賞

スポーツ保健医療学科

大縄跳び

- 1位 スポーツ保健医療学科
- 1位 数理・物理サイエンス学科
- 3位 経営総合学科

リレー

〈男子〉

- 1位 国際学科
- 2位 スポーツ保健医療学科
- 3位 経営総合学科

〈女子〉

- 1位 スポーツ保健医療学科
- 2位 理学療法学科
- 3位 保健看護学科

アトラクション クラブ対抗リレー

- 1位 硬式野球部
- 2位 陸上競技部
- 3位 ハンドボール部

Chubu Walk

5月2日、クラブ運営委員会主催のChubu Walkが開催され、学生57人、教職員2人が岐阜県恵那市の中部大学研修センターから春日井キャンパスまでの約44kmを歩きました。参加者は午前9時頃出発し、休憩ポイントで体を休めながら歩き続け、午後7時55分にトップがゴールしました。完歩した学生にはスポーツ・文化センター副センター長の伊藤守弘教授(スポーツ保健医療学科)から完歩証明書が授与されました。また、クラブ運営委員会とEMS(Emergency Medical System)の学生が運営をサポートしました。



バドミントン大会

6月24日、講堂(体育館)で第49回バドミントン大会が開催されました。トーナメント方式でダブルスの試合が行われ、男子・混合の部に16組32人が参加し、優勝を目指して熱戦が繰り広げられました。また、今回初めて女子の部も開催され、女子ダブルス8組16人によるトーナメント戦も実施されました。優勝は中川真呂さん(電気電子システム工学科4年)・横山光明さん(同)でした。女子の部の優勝は奥村遥寧さん(臨床工学科1年)・加納茉織さん(数理・物理サイエンス学科1年)でした。



現代教育学部 現代教育学科 樋口万太郎 准教授

AI先生の開発

——「わかる」を支える、もう一人の先生



先生の体は一つしかない

「AI先生を開発する研究をしています」。
こう言うと、たいてい驚かれます。「先生をAIに置き換えるの?」と。でも、そうではありません。私が研究しているのは、教室にいる先生の代わりではなく、先生と一緒に子どもたちの学びを支える「もう一人の先生」としてのAIです。

学校の教室を想像してみてください。一人の先生が、30人以上の子どもたちを同時に見えています。ある子はすらすら解ける。ある子はつまづいている。ある子はそもそも問題の意味が分からない。先生はその全員に目を配りたい。でも、体は一つしかありません。そこに、一人一人のそばに寄り添って問いかけてくれる存在がいたら——それが「AI先生」の発想です。

答えを教えないAI

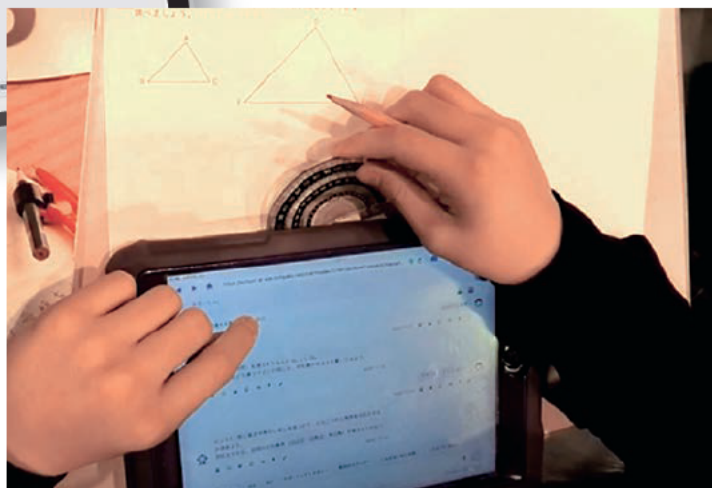
ただし、このAI先生は答えを教えません。「 $3+5$ は?」と聞かれて「8だよ」と返すだけなら、電卓と変わりません。私が目指しているのは、子どもに「なぜそうなるの?」と問いかけ、考えを引き出してくれるAIです。

例えば、小数のたし算と分数のたし算。見た目はまったく違う計算ですが、「同じ大きさの単位をそろえてからたす」という原理・原則は共通しています。0.1が何個分、五分の一が何個



樋口 万太郎
ひぐち まんたろう

専門は算数科教育。公立小学校での教員経験を経て現職。著書多数。教員コミュニティ「先生ハウス」を主宰し、YouTubeやTikTok、ブログでも発信を続ける日向坂46が大好きな坊主の人。



分という単位をそろえるという考え方は同じなのです。ところが、学校の算数では「小数のやり方」「分数のやり方」をそれぞれ別々に覚えて、計算ができればそれで良しとされがちです。

「できる」と「わかる」は違う

やり方を覚えて正解を出せること、それは「できる」です。でも、なぜそのやり方でうまくいくのか、他の場面でも使える考え方は何か、そこまで理解すること、それが「わかる」です。AI先生が目指すのは、子どもたちのこの「わかる」を育てることです。

具体的には、子どもが算数の問題に取り組む過程で、AIが対話を通じて考え方を引き出します。「さっき小数のときはどう考えた？」「分数でも同じことができないかな？」。答えを与えるのではなく、考える道筋と一緒に作る。それがこの研究の核心です。

AIの時代だからこそ、人間にしかできない「深く考える力」がより大切になります。その力を育てるためにこそ、AIの力を借りる。教室の先生と、AI先生。二人三脚で、子どもたち一人一人の「わかる」を支えていく。そんな未来を、この研究室から作っていきたいと思っています。

教えて!!

学生編集委員のページ

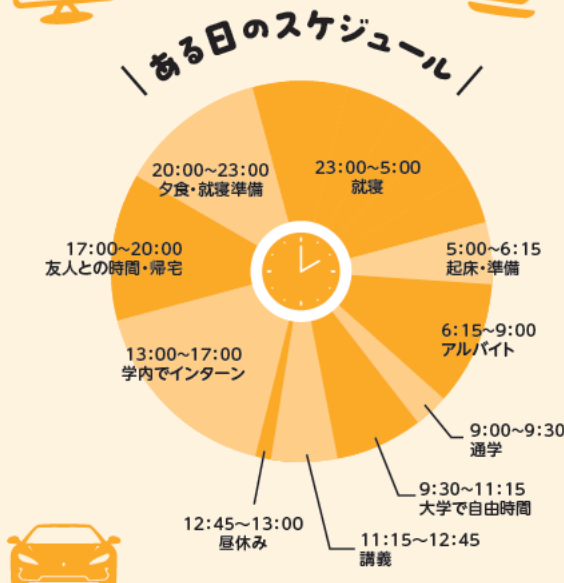
文理医教の一日のスケジュール

学科や専攻、目標によって一日の過ごし方は十人十色。文理医教の各分野で、自分らしく充実した日々を送る学生たちの多様なキャンパスライフに迫ります。

文

姫野 結太さん

経営総合学科4年



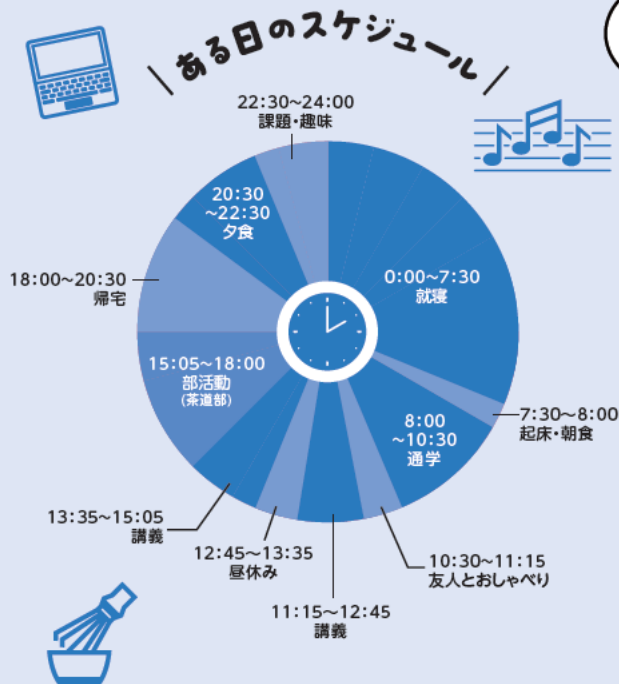
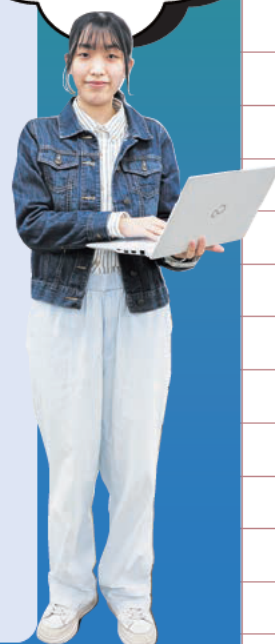
朝の喫茶店でのアルバイトの休憩中にカフェオレを飲みながら、卒業研究「成熟市場における高付加価値での成功要因」を進めています。通学は自分のペースを保てる自転車です。大好きなスポーツカーを眺めながら走る時間が良い気分転換です。昼休みは切磋琢磨し合うゼミ仲間とランチを楽しみ、放課後もゼミ仲間と過ごす時間を大切にしています。「誘いは断らない」をモットーに、一人の時間と仲間との交流を両立させ、充実した日々を謳歌しています。



理

丹野 桃寧さん

情報工学科3年



私の一日は、毎日7時半に始まります。通学中は邦楽ロックを聴き、大学では友人と合流して講義を受けます。この日は、論理代数などの専門知識を学ぶ「論理回路」や、専門英単語を学ぶ「情報技術英語」を受講しました。放課後は部長をしている茶道部で部活動に励んでいます。帰宅後は22時半から課題に取り組み、余裕がある日は絵を描いたり、漫画を読むなど趣味を楽しみます。今後は将来の希望職種に就くため、ITパスポートなどの資格取得のための勉強も始める予定です。



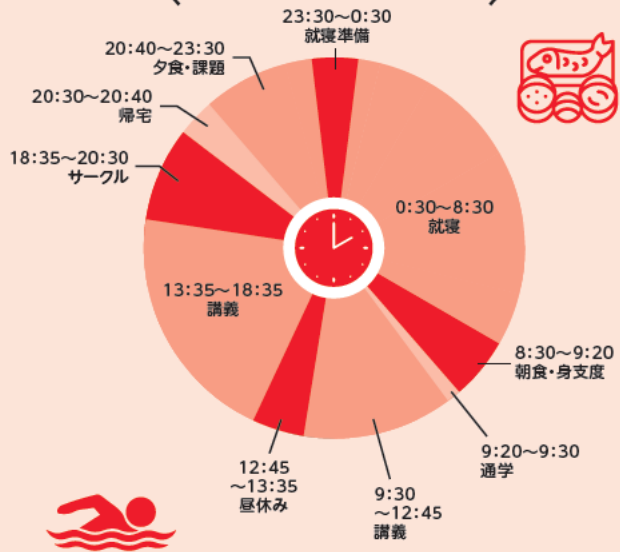


医

山口 雄太さん
スポーツ保健医療学科3年



ある日のスケジュール



救急救命士の勉強のため、講義中心の日々ですが、水泳コーチ資格の取得にも励んでいます。多忙な毎日を乗り切るため、課題は翌日までに終わらせ、食事のバランスにも気を配っています。昼休みは、1年次から切磋琢磨している仲間と過ごす大切な時間です。休日にも一緒にランニングなど、体を動かしてリフレッシュしています。現在は救急救命士を目指し、日々の生活を送っていますが、今後は新聞やニュースに触れる時間を作り、社会への視野をさらに広げていきたいです。

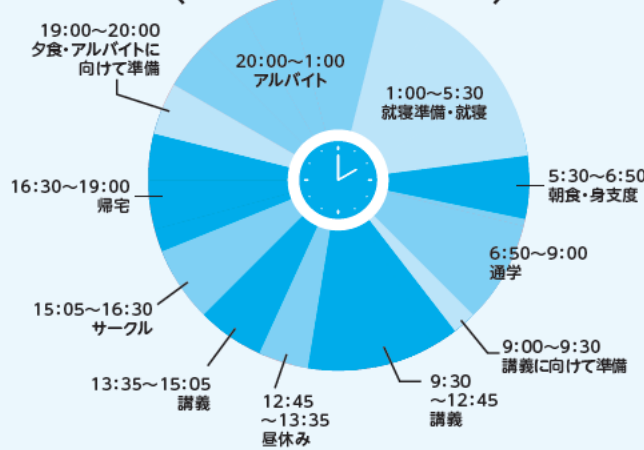


教

田上 叶恵さん
現代教育学科
現代教育専攻2年



ある日のスケジュール



私は小学校の教員を目指しています。「日本の憲法」の講義では校則の意義を深く考え、児童が納得できる指導を行う重要性を学びました。また「発達心理学」では、特別な支援が必要な児童の特性を学び、一人一人に応じた教育を行うための専門知識を養っています。授業後は、所属している手話サークルでさまざまな手話表現を学んでいます。勉強とアルバイトの両立ができるよう、時間を効率良く使う工夫をしています。今後はより計画的に学びの時間を確保し、児童の心に寄り添い、共に成長できる教育者を目指します。





学生編集委員のページ

文理医教の 一目のスケジュール

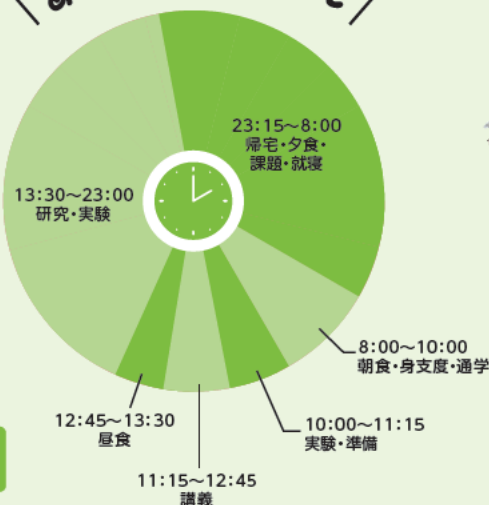
理

半田 皓大さん

大学院応用生物学専攻
博士前期課程1年



ある日のスケジュール



午前中の講義後は深夜まで実験に没頭し、「植物の環境ストレスに対する防御機構」を研究しています。二つの実験を丁寧に行うため帰宅は遅くなりますが、予想通りの結果や新たな発見に大きな喜びを感じます。日頃からタイムマネジメントを徹底し、17時頃にはお菓子で糖分補給をして集中力を維持しています。実験が失敗した際は、趣味のスポーツ観戦で気分転換を図ります。将来は研究開発職に就き、グローバルな視点で日本の食や農業の課題を解決したいです。



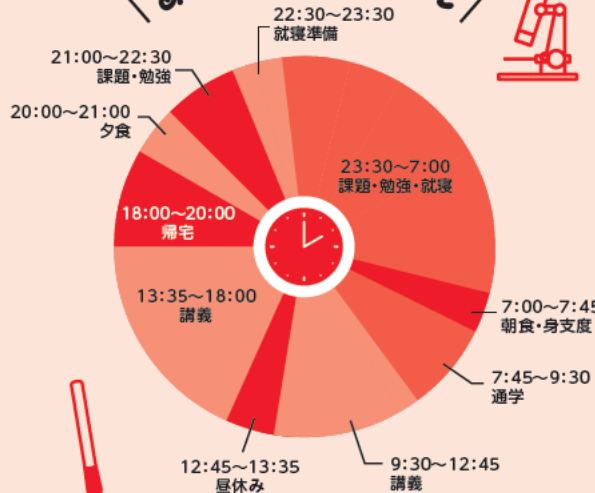
医

近藤 陸さん

生命医学科2年



ある日のスケジュール



臨床検査技師になるために、難解な課題にも納得がいくまで向き合い、正確な結果を得るために試行錯誤を繰り返して、探究心を養っています。多忙な中でも「5分前行動」を意識して隙間時間を生み出し、専門用語の復習に充てるなど時間を有効活用しています。息抜きは通学中のゲームです。また、水曜日は書道部の活動、土日は習い事の書道に取り組み、学業で培った集中力を生かしています。今後もタイムマネジメントを徹底し、学業と書道を両立させながら臨床検査技師になる夢を叶えたいです。





ウプト学生編集委員は、本誌「ウプト」の編集の一端を担う学生です。主に「学生編集委員のページ」コーナーを担当し、学生ならではの視点で企画を立て、取材や執筆に取り組みます。留学生を紹介する「A Friend from Abroad」やスポーツで活躍する学生を紹介する「CU Sports Spirit」コーナーでもインタビューに挑戦し、原稿を執筆しています。自分たちで「何を伝えたいか」を考えて取材を重ね、思いが形になったときに得られる達成感と喜びがあります。

ウプト学生編集委員長

副委員長

書記

メンバー

ウプト学生編集委員の活動は、学生編集委員長をトップに学生が主体となり、職員とも連携して進められています。

活動体制

4 校正

印刷前に誤字脱字や表現、レイアウトを最終確認します。

3 原稿執筆

取材で集めた情報を選択し、限られた字数で文章にします。

2 取材

企画決定後、自ら協力者へ取材交渉を行います。

1 企画会議

学生の感性を生かした、読者目線の企画立案を行います。

活動内容

VOICE 02 熊部 日菜

入学を機に新しいことに挑戦したいと考え、掲示板のポスターをきっかけに加入しました。活動頻度が適度なため部活動とも両立できています。

この2年間、他学科の学生や留学生への取材など、普段の学生生活では経験できない活動に従事しました。多くの対話を通じて多様な価値観に触れたことは、自分の視野を広げる貴重な機会となっています。

VOICE

01

体験談 ウプト 学生編集委員の声

小野 あんじゅ

1年次に、自分に合う部活動やサークルが見つからず悩んでいた際、同じ学部先輩に声をかけていただいたことが加入のきっかけです。活動の魅力は、企画立案から取材、執筆まで一貫して携われる点です。号数を重ねるごとに、円滑なアポイントメントや取材内容の要約・共有など、社会で役立つ実践的なスキルが身に付いていくことを実感しています。

 熊部 日菜 国際学科 3年	 小野 あんじゅ 国際学科 3年	 田中 佑佳 コミュニケーション学科 4年	 伊藤 麻央 コミュニケーション学科 4年	 阿部 倫弥 歴史地理学科 4年	 森山 裕多 宇宙航空学科 3年	 吉村 希 国際学科 4年
 山上 凌汰 機械工学科 1年	 田邊 琴子 メディア情報社会学科 1年	 小松 望愛 現代教育学科 2年	 寺西 明 現代教育学科 3年	 星野 結菜 食品栄養科学科 3年	 村松 大雅 心理学科 3年	 重松 歩佳 国際学科 3年

2026年度
ウプト
学生編集委員
(敬称略)

ウプト 学生編集委員 大募集!

学年は問いません。いつからでも始められます。関心のある方は、入試・広報部制作課(1号館1階)までお越しください。電話・メールでもお問い合わせ可能です。

0568-51-4465 (入試・広報部制作課直通)

chubu-selsaku@fsc.chubu.ac.jp

メールはこちら

ようこそ

わが研究室

vol.191

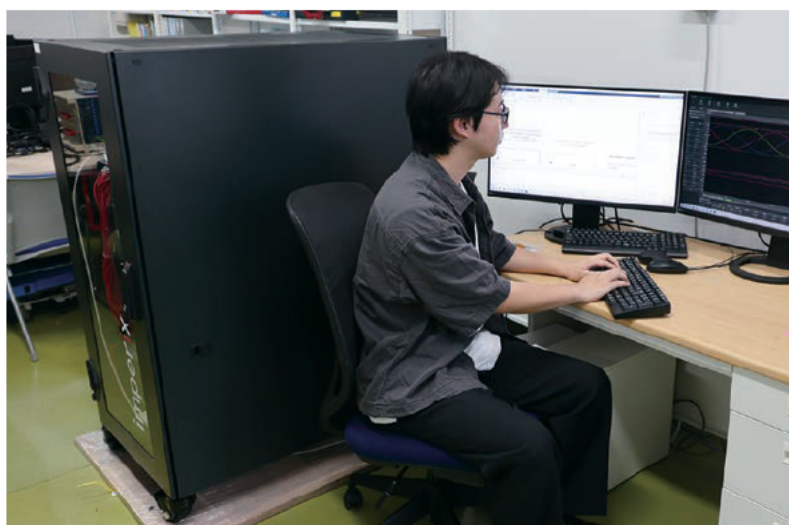
電気電子システム工学科
飯岡 大輔 研究室

再生可能エネルギー電源を 主体とする電力ネットワークに 関する研究

私たちの研究室は、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー電源を主体とした電力ネットワークの構築を目指した研究を行っています。

太陽光や風力の発電電力は天候によって変化するため、再生可能エネルギー電源を大量に導入すると、電力ネットワークの電圧や周波数が変動し、高品質の電気エネルギーが欠かせない社会生活に悪影響を及ぼす可能性があります。このような課題を克服し、再生可能エネルギーの導入量をさらに増やすため、これまでにない新しい技術を電力ネットワークに適用することを目指しています。研究室では電圧制御や保護制御、AI応用に関する研究に取り組んでおり、その中で私は地域マイクログリッドにおける電圧制御について研究しています。

研究室のオープンスペースで毎週報告会を開催しています。そこでは2週間に1回、取り組んだことや疑問点をまとめたレポートを作成して報告します。これらを通じて、専門的な研究はもちろん、社会人になつてからも役立つ「人に読んでもらえるレポートの書き方」や「人に聴いてももらえるプレゼンテーションの方法」を基礎からしっかりと学んでいます。



ゼミ生レポート



工学研究科 電気電子工学専攻
博士前期課程1年

押谷 俊秀

ゼミ生に
ひとこと



電気電子システム工学科
いいおか だいすけ
飯岡 大輔 教授

研究室生活は、仕事の進め方やプレゼン、レポート作成など、社会人でも役立つ基礎を学ぶトレーニングの場です。誰もやったことのない研究は難しいですが、分からないことを明らかにし、克服するプロセスこそが成長に繋がります。自分で手を動かして、一生の財産となる仲間と議論を重ねていきましょう。立派な成果でなくて構いません。「これをやり遂げた!」と言える経験を積み、自信を持って社会へ羽ばたいてください。

先生は
こんな人

普段から学生との距離が近く、楽しく優しい雰囲気を作ってくださいの親しみやすい先生です。分からない時は的確なヒントを与え、学生自らの考える力を養えるよう導いてくださいます。また、日々の指導ではプレゼン力やレポート作成能力といった実践的なスキルもしっかりと鍛えていただき、私たちの総合的な成長を温かく力強く後押ししてください。



わがクラブ

トライアスロン部

Club News No.203

限界の先へ、 みんなで挑む

みなさんこんにちは。中部大学
トライアスロン部です。
私たちトライアスロン部は、現
在30人で活動しています。トライ
アスロンとは、スイム(水泳)、バ
イク(自転車)、ラン(ランニング)
の3種目を連続で行い、その合計
タイムを競うスポーツです。一見、
始めるハードルが高いスポーツに



感じますが、部員のほとんどはト
ライアスロン未経験で、野球、
サッカー、陸上経験者から、今ま
で運動経験がなかった人など、さ
まざまな人が所属しています。
主な練習内容は、火曜日にラン
、水曜日にスイム、土曜日にバ
イクとスイムで、一週間で3種目
を練習します。ゴールデンウィー
クや夏休みには、学外で合宿を行
います。海や湖で泳いだり、普段
とは違ったコースを走ったり、よ
り実践的な環境で、さらなる技
術や体力の向上を目指します。
また、毎年インカレ出場選手を
輩出しており、本格的に競技に
取り組む人から、スポーツとして
楽しむ人までさまざまです。部員
それぞれが違った目標を持ちつ
つ、同じ場所で練習を重ね、互い
を支え合い、高め合える雰囲気
が魅力です。

さらに、部の取り組みはトラ
イアスロンだけではありません。
11月には伝統行事である大学祭
に模擬店を出店し、チヂミを販売
しています。3月には、大学から
岐阜県の恵那峡までの、往復約
120kmの距離を自転車で行って
む、恵那峡ロングライドを行って
います。上り坂が続く恵那峡ま
での道のりをみんなで走り切るこ

とで、部の結束力がより一層深ま
ります。
このように、楽しむことと、
真剣に練習することのメリハリ
をつけて、何事にも全力で取り
組んでいます。トライアスロン
に興味がある方はもちろん、運
動不足を解消したい方、大学生
活で新しいことに挑戦したい方
など、どんな方でも大歓迎で
す。ぜひ一緒にトライアスロン部
を盛り上げていきましょう！

トライアスロン部のX(旧
Twitter)、Instagram
のアカウントで、質問や見学の
連絡を随時受け付けています。
興味のある方は気軽に連絡し
てください。



トライアスロン 部長
機械工学科3年
三崎 日飛斗



Instagram



X
(旧Twitter)



第78回

私の学生時代

食品栄養科学科 小池 温子 助教



「スポーツ栄養学」という軸で広がった自分の世界

私の現在のキャリアの原点は、学部時代の卒業研究で大学生アスリートへの栄養サポートに携わったことにある。選手をサポートする難しさに何度も直面したものの、この経験が「管理栄養士と

してスポーツに生涯関わり続けたい」という強い動機付けとなり、卒業後に実務経験を経て管理栄養士の資格を取得した。その後、スポーツ現場で当たり前のように実践されている食事法の科学的根拠を自ら検証・発信したいという新たな目標が生じ、仕事を辞め、スポーツ栄養学をテーマに基礎研究を展開していた東京大学大学院の寺田新教授の研究室へと進学した。

修士・博士課程を過ごした東京大学は、それまでの考えや姿勢を大きく変える刺激に満ちていた。何より私に多大な影響を与えたのは、周囲の先輩たちの圧倒的にストイックな姿勢だった。日中は実験に打ち込み、夜は代々木公園へ10kmランに行くことが日課の彼らに、私も必死についていき、走りながら本当にいろいろなことを話した。常に自分を成長さ

せることに貪欲で、「できるかできないか」ではなく「やりたいか（やり抜くか）どうか」を軸に日々邁進する彼らに感化され、海外経験がなかった私も留学への挑戦を決意した。幸運にも「トビタテ！留学JAPAN」に採択され、博士2年の時にハンガリースポーツ科学大学のZolt Radák教授のもとで10カ月の研究留学を果たした。

留学先では、言葉や文化の壁に葛藤しながらも、実験に打ち込んだり、多国籍の友人を作ることができた。さらに、現地のハンドボールチームで活躍していた日本人オリンピックに出会い、異国の地でさらなる高みを目指すその覚悟に心から勇気づけられた。そして、留学を経て、新たな挑戦に対する心理的ハードルが一気に下がった。帰国後、指導教員や周囲の支えにより無事に学位を取得。こ

の研究生活で、心身ともに強くなり、気が付けばフルマラソンを完走できるようになっていた。

スポーツ栄養学という一つの軸を追求した結果、長らく願っていた目標を達成しただけでなく、かつての自分が想像もしなかったほど世界が広がった。自分の可能性はいつ、どこで開けるか分からない。だからこそ、目の前のことに全力で取り組むべきなのだという教訓を、次世代を担う学生たちへと伝えていきたい。



▲ 留学先のラボメイト



▲ 博士修了時。恩師に背中を押していただく

三河病院
臨床心理士

杉浦 叶恵さん
2018(平成30)年度 心理学科卒業

子どもの心の声に寄り添う

三河病院で、臨床心理士として勤務する杉浦叶恵さん。入院中や外来の子どもたちに対して心理面接や知能検査などを通して心のケアを行う。言葉でのコミュニケーションに課題を抱える子どもが多いため、会話だけでなく、一緒に遊びながら、何に困っているのかを把握するアセスメント(評価)も欠かせない。医師から「感情のコントロールや行動面での課題について対応してほしい」との依頼を受けられ、その子に合うアプローチを一から組み立てる。「自分一人では解決できないことも多いため、早めに周囲に相談し、チームで動くことを心がけています。患者さんに対しては、少しでも話しやすいよう柔らかい接し方を意識しています」と、日々の業務に向き合っている。

心を開いてくれる喜び

やりがいを実感するのは、じっくりと時間をかけて関わる中で、子どもたちが少しずつ心を開いてくれた瞬間だ。「いらだちを感じていても、何に対して、何が原因で困っているのか自覚

できなかった子が、自分のことを話してくれるようになったり、『話を聞いてほしい』とSOSを出せるようになったり。そんな些細な変化を見せてくれたとき、ここで安心して過ごせているのかなと嬉しく思います」

日々の関わりは理想通りにいかないことも多いが、だからこそ粘り強く試行錯誤を重ね、その子に合う支援の形をチームで見つけていくプロセスに、何物にも代えがたい喜びを感じている。

学びの原点と今に続く絆

対人関係への関心から心理学を学びたいと選んだ中部大学では、恩師である願興寺礼子教授(心理学科)の勧めで参加した「適応指導教室」でのボランティアが、大きな転機となった。学校生活に悩みを抱える子たちと触れ合い、その優しさに触れる一方で、コミュニケーションの難しさを痛感。「子どもの発達や心の発達についてもっと詳しく知りたい」という思いが強まり、鳴門教育大学大学院に進学し、臨床心理士を志した。

学生時代はバレーボール部に所属し、学部を越えた仲間と切磋琢磨した。その友人たちとは今も月に一度集まって近況を報告し合う中で、仕事の疲れをリセットできる大切な繋がりとなっている。

自分から一步を踏み出す

現在は、認知行動療法(CBT)などの専門的な知識をより深め、臨床業務に生かそうと研鑽を積んでいる。そんな杉浦さんから、後輩の学生たちへアドバイスを送る。

「大学時代は、とにかく今しかできないことを全力で楽しんで、たくさんの経験をしてほしいです。社会に出た後に、その経験があるからこそ深く考えられる瞬間が必ず訪れます。また、卒業論文や将来のことで迷ったり、どうしていいか分からなくなったりした時は、一人で悩まずに先生を頼ってください。『こんなことで困っています』と相談すると、中部大学の先生方は有益な助言などで導いてくださいます。ぜひ勇気を出して一步を踏み出し、充実した時間を過ごしてください」

特集レポート

2025年度決算報告
〈法人事務局財務部〉

大学の 収入・支出分析

Part

1

2025年度の中
部大学の事業活動収
支状況は【表1】のと
おりです。学生生徒等納付金
や経常費等補助金など経常的
な収入から人件費や教育研究
経費など経常的な支出を引い
た「経常収支差額」は27億8千
7百万円となりました。また、
経常収支差額に当年度限りの
臨時的な収入と支出（特別収
支）を加味した「基本金組入前
当年度収支差額」は23億2千
3百万円となりました。20
25年度は、経常的な収支と
臨時要因を加えた全体の収支
ともに収入超過であり、全体
としては収支バランスのとれ
た決算であったといえます。

【表1】の経常収入の内訳と
経常支出の内訳をグラフ化し
たものが経常収支構成図（グ

【表1】2025年度中部大学事業活動収支状況 単位:百万円

科目		決算額
教育活動収支	収入	
	学生生徒等納付金	15,293
	手数料	366
	寄付金	229
	経常費等補助金	3,229
	付随事業収入	778
	雑収入	516
	教育活動収入計	20,411
	支出	
	人件費	9,102
教育活動外収支	教育研究経費	7,452
	管理経費	1,340
	徴収不能額等	15
	教育活動支出計	17,909
	教育活動収支差額	2,502
教育活動外収支	収入	
	受取利息・配当金	275
	その他の教育活動外収入	37
	教育活動外収入計	312
	支出	
特別収支	借入金等利息	27
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	27
特別収支	教育活動外収支差額	285
	経常収支差額	2,787
	収入	
	資産売却差額	0
	その他の特別収入	191
	内訳	
	施設設備寄付金	0
特別収支	現物寄付	77
	施設設備補助金	114
	特別収入計	191
	支出	
	資産処分差額	86
特別収支	その他の特別支出	569
	特別支出計	654
	特別収支差額	△464
基本金組入前当年度収支差額		2,323
基本金組入額合計		△1,143
当年度収支差額		1,181
(参考)	事業活動収入計	20,914
	事業活動支出計	18,590
	経常収入(教育活動+教育活動外)	20,723
	経常支出(教育活動+教育活動外)	17,936

皆さんが納めている授業料や
入学金です。経常的な収入の
約74%を占めています。

大学を支える教職員の給与お
よび退職金等です。

教育研究活動に必要な経費
で、教育や研究のために有効に
活用しています。

経常的な収支のうち教育研究
の収支です。

経常的な収支のうち財務活動
の収支です。

教育活動収支差額と教育活動
外収支差額の計です。経常的
な収支状況を表しています。

当年度限りの臨時的な収支状
況です。

建物、備品、図書など将来を見
据え、学校運営に必要な財産
を取得した額です。取得額を収
支差額から控除(マイナス表
示)することになっています。

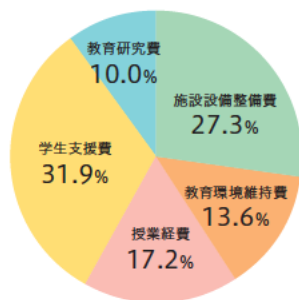
学校法人中部大学の2025年度決算は、
6月10日の理事会で承認されました。
本学園は、大学、高校および中学校を有し
ており、その計算書類は学校法人会計基準に
より作成しています。
ここでは計算書類から大学部門の決算を
抜粋して、その概要を報告いたします。

※百万単位で四捨五入しているため、計の欄の金額が表の金額と一致しない場合がある。

Part 2

【グラフ2】
教育研究経費の明細

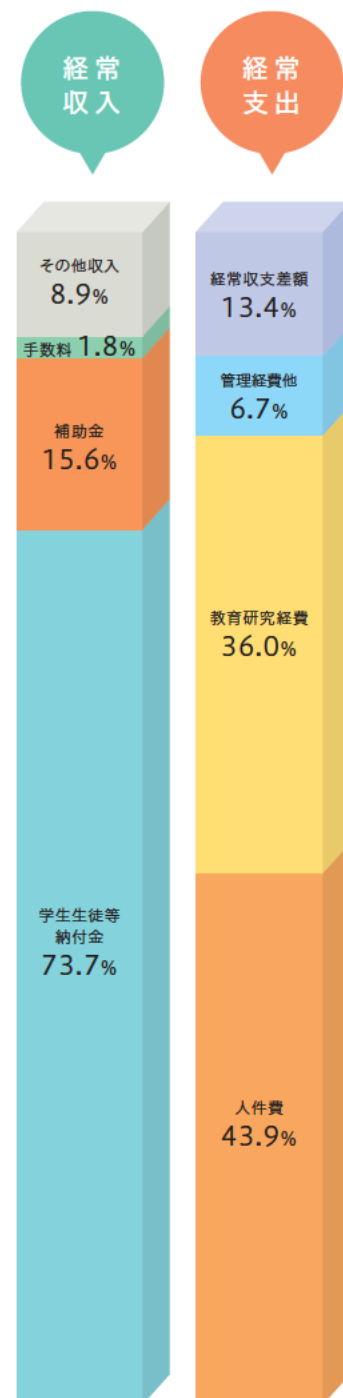
総額：74億5千2百万円



次に教育研究経費の使い道を目的別に見てみましょう。教育研究経費は全体で74億5千2百万円であり、その内訳は教育研究経費の明細【グラフ2】のとおりです。また、項目別の内容はそれぞれ次のようになります。施設設備整備費は建物や備品の整備・更新に充当される費用です。教育環境維持費は学生の皆さんが自主的に勉学を深める図書館などの運営経費や大学の情報通信環境の維持費などです。授業経費は授業を行うための教材費や光熱水費、またその運営を支援する事務部門の費用です。学生支援費は課外活動の支援、資格講座・就職講座の実施、健康診断、奨学金など皆さんの学生生活を支援している費用です。教育研究費は各研究所や先生方の研究のための費用で、企業等からの委託研究費もこの中に含まれています。

【ラフ1】です。この図を見ると教育研究活動への影響が大きい「人件費」と「教育研究経費」に経常収入の約80%を充てており、皆さんの学生等納付金をはじめとする収入が重点的に教育研究活動に使用されていることが分かります。

【グラフ1】経常収支構成図

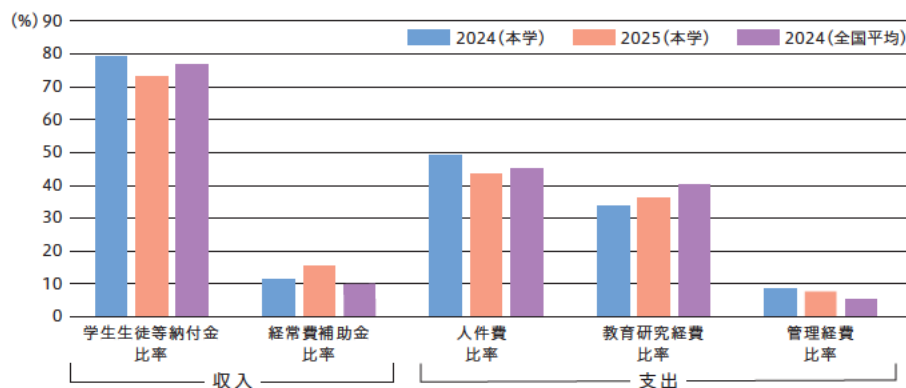


Part 3

最後に本学と同規模大学の全国平均値（理工系複数学部）との比較をしてみましょう。

【グラフ3】の経常収入に対する構成比率比較図は、主要な項目について本学と全国平均値を比較したものです。本学の主な収入源である学生生徒等納付金の経常収入に占める割合は、全国平均を下回っています。一方、経常費等補助金の割合は全国平均を上回っており、これは2025年度、修学支援新制度の拡充（多子世帯所得制限撤廃）に伴い補助金（経常収入）が増加したことが要因です。また、支出面についても同制度の影響を受けているため、全国平均との単純比較は困難ですが、同年度における人件費比率は全国平均より高い水準にあります。これは本学が他大学より多くの教員を配置していることを示しており、教員一人当たりの学生数が少ないため、実習支援や少人数教育など、学生一人一人に対するきめ細かな教育研究活動の実現につながっています。今後も教育内容のさらなる充実を図るとともに、健全でバランスの取れた財務運営を目指し、学生生徒等納付金の有効活用に使っていきます。

【グラフ3】経常収入に対する構成比率比較図



CAMPUS NEWS

2026年度伊藤早苗賞表彰式

7月15日午後、2026年度伊藤早苗賞表彰式が行われた。若手女性研究者部門で祖父江沙矢加准教授(臨床検査技術教育・実習センター)、六車香織助教(応用生物学部環境生物科学科)が、女子大学院生部門で横山さや香さん(応用生物学研究科応用生物学専攻博士後期課程3年)、小柳宏華さん(生命健康科学研究科生命医科学専攻博士後期課程2年)が受賞した。



就職支援プログラム

「就活メイク・ヘアスタイリング講座」、
「身だしなみ・ヘアスタイリング講座」

5月20日午後、不言実行館ACTIVE PLAZA5階IL Group Career Hub B(クリエイティブラボB)で「就活メイク・ヘアスタイリング講座」が、1階アクティブホールで「身だしなみ・ヘアスタイリング講座」が開催された。株式会社資生堂から講師を迎え、「就活メイク・ヘアスタイリング講座」に28人、「身だしなみ・ヘアスタイリング講座」に10人が参加した。面接での第一印象についてと清潔感のあるメイクアップ、身だしなみなどを学んだ。



日本伝統文化推進プロジェクト

「能楽鑑賞会」「日本舞踊公演会」

6月3日午後、三浦幸平メモリアルホールで、日本伝統文化推進プロジェクト主催の能楽鑑賞会が開催され、合計236人が参加した。シテ方観世流能楽師の久田三津子氏による能が披露された。また、7月8日午後には日本舞踊公演会が行われ、日本舞踊西川流四世家元西川千雅フェローの講話・実演が行われた。

ネーミングライツ・パートナーが
学生を対象に無料ランチを提供

湯浅糸道ホール(第1学生ホール)、AIKOKIKI HALL(第2学生ホール)でネーミングライツ・パートナーによる限定ランチが学生を対象に無料提供された。事前に配布されたくじを引いて「当たり」が出た学生に240~250食提供され、特別なランチを楽しんだ。



学内業界セミナー

5月15~17日・23・24日の5日間、学内業界セミナーが開催された。15~17日は対面で三浦幸平メモリアルホールを会場に、23・24日はオンラインで行われた。449社の企業が出展し、15~17日は学生延べ1,603人、23・24日は学生延べ2,508人が参加した。



父母との集い

保護者を対象とした父母との集いが6月6・20日の2日間開催され、保護者2,249人が参加した。1年生向けには全体会を実施し、6日は篠田諭後援会副会長、20日は足立恵昭後援会長のあいさつの後、前島正義学長による大学の近況報告や、教務部長・学生部長による学生生活についての講演が行われた。また、2・3年生向けのキャリア部長による就職説明会をはじめ、学科説明会、個別面談、各種相談、学生によるキャンパスツアーや初夏の茶会も実施され、多くの保護者が参加した。



スジャータめいらく レシピコンテスト

5月27日・6月24日午後、72号館1階実習食堂でスジャータめいらく株式会社と産学連携でスジャータプレミアムを使用したレシピコンテストが開催された。食品栄養科学科と経営総合学科の学生14チームが応募し、レシピおよび販売施策を考案するとともに、試作品を用意してプレゼンテーションした。7月15日に表彰式が行われ、最優秀賞に「こくうま豚汁」、優秀賞に「マントウ風水餃子」「ミートソースグラタン」、アイデア賞に「食べる！スジャータタルタル」、技能賞に「ざくろとメレンゲのアイスクリーム」、スジャータ賞に「塩ミルクキャラメルソース」が選ばれた。



経営総合学科×食品栄養科学科

株式会社オークワとのコラボ弁当を販売

5月22～24日、経営総合学科の清水真研究室と食品栄養科学科の香西はな研究室、田中守研究室の学生が考案した弁当が株式会社オークワの東海31店舗で販売された。3日間は2種類の弁当が、23・24日の2日間は春日井店で4種類の弁当が販売された。



メディア情報社会学科

こまき産業フェスタ2026に出展

5月23・24日、パークアリーナ小牧でこまき産業フェスタ2026が開催され、メディア情報社会学科の学生らが出展した。こまきこども未来館で上映しているプロジェクションマッピングや子ども用簡易VRメガネの作成と3D映像体験などでSDGs達成に向けた地域貢献活動の紹介を行った。



交通安全特別セミナー

6月17日午後、不言実行館ACTIVE PLAZA1階アクティブホールで交通安全特別セミナーが開催され、学生180人が参加した。小林眞氏（元春日井警察署長、緑警察署長などを歴任）が、事故防止のポイントや昨今の道路交通法改正について解説した。



春日井市消防団

中部大学機能別分団入退団式

5月20日午後、51号館3階の講義室で、春日井市消防団中部大学機能別分団入退団式が行われ、スポーツ保健医療学科の4年生10人が退団し、新たに同学科の1年生10人が入団した。春日井市からは春日井市消防本部の消防長、副消防長らにご出席いただき、宣誓書を1年生の宇佐美幹さんが読み上げた。学生消防団は、任務を限定した「機能別分団」として避難誘導や応急処置などを担当する。



環境生物科学科・食品栄養科学科管理栄養科学専攻・ 応用生物学部農場サポーターズクラブ 実習農場で田植えを実施

6月6日、応用生物学部実習農場でスタートアップセミナーの一環として「田圃を活用した生態系の多様性と食物生産の学び直し」をテーマに田植え実習が行われた。環境生物科学科、食品栄養科学科管理栄養科学専攻の1年生が参加した。植えられたイネは応用生物学部農場サポーターズクラブが管理し、収穫は10月中旬を予定している。



ハンドボール部応援バスツアーを開催

5月23日、スポーツ・文化センター主催による「株式会社ゆめスタ presents 中部大学応援バスツアー（第2回）」が開催された。本イベントは、ハンドボール部の春季リーグ戦を応援する学生限定の企画で、当日は多くの学生が参加し、大学から会場までバスで移動。会場に到着した参加者にはオリジナルの応援グッズが配布され、観覧席ではハンドボール部員たちも合流。部員によるリードのもと、応援団と一体となって熱いエールを送った。



硬式野球部

薬師寺颯樹さん、高橋翼さん、藤田悠矢さん、高井咲来さんが2026年度愛知大学野球連盟春季リーグ戦でベストナイン賞を受賞

2026年度愛知大学野球連盟春季リーグ戦において、硬式野球部の4人がベストナイン賞を受賞した。捕手として薬師寺颯樹さん（経営総合学科4年）、三塁手として高橋翼さん（同3年）、遊撃手として藤田悠矢さん（同）、外野手として高井咲来さん（同）がそれぞれ受賞した。



左から高井さん、高橋さん、薬師寺さん、藤田さん

ハンドボール部

林田崇希さん、ハリス希生さん、村田大希さんが令和8年度春季リーグ戦で個人賞を受賞

2026（令和8年）度春季リーグ戦で林田崇希さん（経営総合学科4年）、村田大希さん（同2年）が優秀選手賞を受賞した。また、ハリス希生さん（同）が得点王を受賞した。ハンドボール部の最終順位は2位で、8月に行われる西日本インカレへの出場権とシード権を獲得した。



左からハリスさん、林田さん、村田さん

食品栄養科学科管理栄養科学専攻

AICHI TECH DAY2026に出展

5月24日、愛・地球博記念公園地球市民交流センターで開催されたAICHI TECH DAY2026に食品栄養科学科管理栄養科学専攻の香西はな研究室と田中守研究室の学生がブースを出展した。実際にサポテンに触れたり、クイズを出題し、食用サポテンを通して食の科学について紹介を行った。



あつまれ!!わんぱく隊

5月30日午前、現代教育学研究所と現代教育学部主催による、第1回目のあつまれ!!わんぱく隊が開催された。わんぱく隊の学生が年中から小学2年生までの子どもを対象に、「色とりどりのカーテンをつくろう!」のテーマのもと、絵の具を使って布に絵や模様を書き、色鮮やかなカーテンづくりを行った。



第8回国際サロン

6月10日午後、20号館1階Glocal Forest Loungeで第8回国際サロンが開催された。「国際文化としてのサッカーを知る。そしてFIFAワールドカップ2026を100倍楽しもう!」をテーマに、堀尾郷介講師（経営総合学科・サッカー部監督）が講演を行った。



トライアスロン部

山田壮流さんが
国民スポーツ大会の愛知県代表に内定

山田壮流さん(スポーツ保健医療学科4年)が、岐阜県海津市で開催された日本トライアスロン選手権・東海ブロック代表予選会に出場し、総合7位、愛知県登録選手の中で2位となり、9月に青森県で開催される国民スポーツ大会の愛知県代表選手に内定した。



写真左が山田さん

空手道部

杉原志琉さん、横矢優月さんが全日本学生
空手道選手権大会に出場

杉原志琉さん(臨床工学科1年)、横矢優月さん(応用生物化学科1年)が、6月27・28日に行われた全日本学生空手道選手権大会に東海地区代表として出場した。また、横矢さんは予選の令和8年度春季東海地区大学空手道選手権大会女子組手個人戦で準優勝した。



左から横矢さん、杉原さん

弓道部

第69回東海学生弓道選手権大会で優勝

5月30・31日にNGKスポーツプラザ弓道場で行われた第69回東海学生弓道選手権大会で男子団体Aチームが優勝した。この大会で、大場来覇さん(機械工学科4年)、中垣内光羽人さん(理学療学科2年)が連中賞を受賞した。



ハンドボール部

ハリス希生さんがハンドボール男子日本代表の
トレーニングパートナーに招集

ハリス希生さん(経営総合学科2年)がハンドボール男子日本代表「彗星JAPAN」のトレーニングパートナーとして招集された。ハンドボール部から大学2年生で日本代表チームに招集されることは、全国的にも稀であり、創部以来初の快挙である。



ハンドボール部

ハリス希生さん、村田大希さんが令和8年度
オリンピックネクスト強化指定選手に認定&
U-21日本代表メンバーに選出

ハリス希生さん(経営総合学科2年)、村田大希さん(同)が公益財団法人日本オリンピック委員会より令和8年度オリンピックネクスト強化指定選手に認定された。あわせて、両名は2026年7月に開催されたハンドボール男子日本代表U-21アジア選手権のメンバーにも選出された。



ハリスさん



村田さん

山口響生さんが第80回 日本栄養・食糧学会でトピックス賞を受賞

山口響生さん(応用生物学研究科応用生物学専攻博士前期課程2年、田中守研究室)が5月15日～17日にサンポート高松(香川県高松市)で開催された第80回日本栄養・食糧学会でトピックス賞を受賞した。発表タイトルは「食塩摂取による食物アレルギー症状増悪とプレバイオティクス介入効果」。



第19回法律カフェ

学生サポートセンター主催で、6月16日午後、第19回法律カフェ「自転車でも青切符に!～今、なぜ重い処分が必要なのか一緒に考えてみよう～」が不言実行館ACTIVE PLAZA2階学生・コモンズで開催され、学生18人が参加した。



第40回清掃キャンペーン(～運拾いver.～)

5月20日午後、第40回清掃キャンペーン(～運拾いver.～)が行われ、C.U.P.(Clean Up Project in Chubu Univ.)の学生を中心に一般の学生、クラブ・公認団体所属の学生合わせて95人、教職員5人が参加した。また、今回はキャンパス清掃にゲーム要素を融合させた新しい試みとして実施し、キャンパス内に隠された特定のペットボトルを見つけ出したグループには食堂で使えるランチチケットが贈呈された。



ひとり暮らし入門

学生相談室主催で、1回目は5月13日に「交流会」、2回目は5月20日に「くつきんぐー簡単料理をみんなで食べよう」が行われ、学生延べ18人(学生サポーター6人含む)が参加した。



西川稜馬さん、今瀬結愛さんが 水上ビル民泊プロジェクト 学生アイデアコンペで最優秀賞を受賞

3月29日、MUSASHI Innovation Lab CLUE(ココアベニュー3階)で開催された、水上ビル民泊プロジェクトアイデアコンペで西川稜馬さん(工学研究科建設工学専攻博士前期課程2年、山岸綾研究室)、今瀬結愛さん(建築学科3年)が最優秀賞を受賞した。発表タイトルは「滞在のレシピ」。



左から西川さん、今瀬さん

下村晃太さんがIEEE名古屋支部 国際会議研究発表賞を受賞

下村晃太さん(工学研究科情報工学専攻博士後期課程3年、山下隆義研究室)が2026年度IEEE名古屋支部国際会議研究発表賞を受賞した。IEEE名古屋支部が、2025年4月1日～2026年3月31日までの期間に国際会議で研究発表を行った学生を対象に授与するものである。



松岡一輝さん、村上剛忠さんが 第47回風力エネルギー利用シンポジウムで ポスター賞を受賞

2025年11月27・28日、ビジョンセンター新橋で開催された第47回風力エネルギー利用シンポジウムで、松岡一輝さん(工学研究科電気電子工学専攻博士後期課程2年、山本和男・松井拓斗研究室)と村上剛忠さん(同専攻博士前期課程2年、同研究室)がポスター賞を受賞した。発表テーマは、「カメラシステムを用いた風車落雷位置検出に関する研究～SCADAとの連携～」。



左から松岡さん、村上さん

第63回中部大学祭

統一テーマ

Luminaria

- 光が紡ぐ冒険の世界 -

開催日時 **10/31 (土)** ▶ **11/1 (日)**
10:00-19:00 10:00-17:00

※後夜祭を除き16:30終了



主なプログラム

- 目玉企画は、学内を光で彩る「Luminaria」や「タレント企画」「後夜祭」、恒例の「研究発表展」「学生・クラブ有志」「ステージ」「模擬店」などを今年も開催!
- その他、誰もが主役になれる「冒険の舞台」では、企画や仕掛けを用意しています。中部大学祭実行委員会一同、皆さまのご来場お待ちしております。

星空かんさつ会

6月5日午後、天文台天体観測所で小学生～高校生向けの星空かんさつ会が行われ、32人が参加した。雨天のため室内での開催となったが、天文学生サポーターによるプラネタリウムや星空解説に加え、天体望遠鏡の操作方法の講習が行われた。



初夏のオープンキャンパスを開催

5月31日、初夏のオープンキャンパスが行われ、2,541人の高校生・保護者らが来場した。各学科の学生も学生スタッフとして盛り上げた。



新刊紹介



痛快! サボテン教室

著者 堀部貴紀准教授(環境生物科学科)
発行 岩波書店 2026年4月14日
定価 1,500円+税

Random Shot 第205回

学生の主体性を陰で支える

「学生が主体となって動けるよう、自分はいくまで陰で支えることを心がけています」と語るのは、学生支援課の唐木純也さん。学生証の発行やバス定期券の管理など、学生生活を円滑に進めるための多様な業務を担う他、ボランティア・NPOセンターの事務局として活動を支援している。

現在は9月に実施する宮城県気仙沼市での「震災教育ツアー」に向け、学生と準備の真っ最中だ。「今回は対象を一般学生にまで広げる新たな試みです。学生たちが自ら考え、ポスター制作など準備を進める姿を見守り、必要な時はサポートすることに、大きなやりがいを感じています」と語る。

過去の経験を、今の力に

本学経営情報学部卒の卒業生でもある唐木さんは、学生時代に経験したピアサポーターやオープンキャンパス、学生広報スタッフなどの活動が、現在の業務の礎になっているという。「人前で話す機会をたくさんいただけたことは、学生と話す場でもとても生きています。学科の活動や学内でのインターンシップなど、さまざまな経験をさせてもらったことが今に繋がっています」

学生の皆さんには「自分の興味があることだけでなく、たくさんの方に目を向けてほしい」と語る。「視野が広がれば、知識や経験が得られ、自分の引き出しも増えていくはず。頑張ったことも苦しいことも含めて今の自分が形作られていると思うので、ぜひ積極的に大学のイベントやさまざまな活動に参加してください」とメッセージを送る。



学生支援課
唐木 純也さん

幼い頃からプロ野球が好きで、現在は草野球チームのエースとしてチームを牽引している。妻の影響で北海道日本ハムファイターズのファンになり、今では夫婦で本拠地エスコンフィールドまで足を運ぶほど熱心に応援している。



う ら 話



第24回全学学科対抗 スポーツ大会



▲運営を担当するハンドボール部



▲選手宣誓



▲表彰式



▲競技前の円陣

5月27日午後、空模様が心配されましたが、幸いにも最後まで天気もち、「第24回全学学科対抗スポーツ大会」を無事に開催することができました。

恒例の大縄跳び、ダンシング玉入れ、リレーに加え、今年からクラブ対抗リレーがアトラクションとして登場。学生たちは学年の垣根を越えて熱戦を繰り広げました。仲間と力を合わせて勝利を目指す真剣な表情や、競技後の笑顔でのハイタッチが非常に印象的な一日となりました。

運営を支えたクラブ運営委員会、硬式野球部、ハンドボール部、サッカー部、書道部、EMS (Emergency Medical System) の尽力もあり、学内交流の輪が大きく広がりました。大会を通して得られた一体感が、今後の学修や日々の活動をさらに加速させる原動力となることを期待しています。

編集 後記

今年度のウプト学生編集委員は、14人で活動をスタートしました。企画立案から取材、原稿執筆まで、自分たちの手で編集作業を進めています。今号では「学生の一日のスケジュール」をテーマに、文系・理系・医療系・教育系の学生にインタビューを行い、それぞれの過ごし方をまとめました。一日の時間の使い方のヒントが詰まった内容です。ぜひ参考してみてください。

中部大学通信 ウプト No.238

発行日／2026年7月31日
発行／中部大学ウプト編集委員会
編集／入試・広報部 制作課
〒487-8501 春日井市松本町1200
<https://www.chubu.ac.jp/>
Tel: 0568-51-4465(制作課直通)
email: info-seisaku@fsc.chubu.ac.jp